

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120 特色ある、多彩な魅力や個性を発信する
施策	122 特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる
施策の目標	「すみだ」らしさを発揮する観光資源が数多く残されているとともに、新たな観光資源が開発され、にぎわいのあるまちになっています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
主要観光施設への来客人数	人	6,000,000					9,403,293
墨田区観光協会の土産品等の売上額	千円	120,000					291,378

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
まち歩きトイレ整備数	数	3				
観光船舶の船着場利用回数	回			2,675	2,629	3,088

3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>・吾妻橋船着場やおしなり公園船着場で、関係部局と連携して水辺の賑わいに資する観光舟運の活性化に取り組んでいる。今後も、施設を適切に維持管理するとともに、引続き関係部局と観光舟運の活性化を見据え周辺施設整備(案内板の設置など)に取り組む。なお、おしなり公園船着場の近傍に、平成27年度に船着場を案内する案内板を整備した。</p> <p>・東京スカイツリー開業を契機に、観光回遊ルート上に3箇所(業平橋・言問・錦糸)まち歩きトイレを整備した。今後は、すみだ北斎美術館開館、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催など、新たな観光資源による人の流れの変化も踏まえ、整備候補地を新たに選定する。</p>
--

4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>・船着場利用者が安全・快適に施設を利用できるよう適切に維持管理する必要がある。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>・既存の公衆・公園等トイレについては、老朽化、和式から洋式への改築などの対策課題があるため、新たな用地取得に限らず、既存トイレ改修も含めた設置箇所の候補を選定し、整備していく。</p> <p>・おしなり公園船着場の夜間開放を継続するとともに、利用状況等も踏まえ、施設管理業務の改善を進める。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課 名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	船着場維持管理事業	都市整備課	23,275	現状維持	
2	まち歩きトイレ整備事業	道路公園課	0	現状維持	
3	船着場周辺施設整備事業	都市整備課	0	現状維持	

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	船着場維持管理事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	122	特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	船着場維持管理費		執行実績報告書ページ	155

1 事業の概要

これまで防災活動や公共の目的のみに活用してきた船着場を旅客船等に開放し、国際観光都市すみだの魅力の向上と水辺空間を活用したうおいのあるまちづくりの推進を図る。 根拠法令等：河川法、墨田区船着場条例、同施行規則	事業開始年度	平成25年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
観光客等の船着場利用者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
安全、快適に船着場を利用できるように、施設の定期的な点検・清掃等の維持管理	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
江東内部河川及び隅田川を周遊し、周辺を回遊している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	船着場使用料	千円	目標値	4,000	5,400	5,500
			実績値	4,226	6,651	8,538
成果指標 (目的に対する指標)	主要観光施設への来客人数	千人	目標値	6,000	6,000	6,000
			実績値	8,766	7,488	9,403
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
・区内5箇所の船着場の一般開放に加え、おしなり公園船着場の夜間開放により、旅客船等が様々なルートを周遊している。 ・吾妻橋船着場の屋形船の利用が増えている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	河川費	目	河川総務費	
27年度 歳出予算額	24,324	27年度 歳出決算額	23,275	27年度 執行率	95.7%	28年度 歳出 予算額	21,108
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称	船着場使用料			収入額	8,538
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>区が公共施設である船着場の維持管理を行い、観光舟運を活用し、区内回遊を促進していくこととしている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>適正で適切な船着場の維持管理等を行うことで、事業者の船着場利用の更なる促進が図られる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>船着場使用料は他自治体と概ね同等の額である。</p>				
(4)現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 船着場維持管理費に比べ、使用料収入が少ない。 業務委託では旧中川にある船着場の管理は含んでいない。 			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>新たな観光資源、観光回遊手段として舟運に力を入れているが、施設管理の業務委託内容の改善等も検討する必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>おしなり公園船着場における夜間開放を継続するとともに、利用状況等を踏まえて、施設管理の業務改善を検討する。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年 第4回定例会	
	要旨	吾妻橋船着場及びおしなり公園船着場の維持管理費が高すぎる。	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	まち歩きトイレ整備事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	122	特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	なし		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

東京スカイツリー開業を契機として、区内の観光客の増加が見込まれることから、観光客に快適なまち歩き観光を楽しんでもらうため、誰もが安全・安心・快適に利用できるトイレ整備を実施する。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
トイレ利用者(区民、観光客等)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
地元や関係各課と調整を行いながら、将来的な観光回遊性の拡充をにらみ、まち歩きトイレの整備	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
区民や観光客等が、快適にトイレを利用でき、まち歩きを楽しめる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	まち歩きトイレ設置箇所数	箇所	目標値			
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	区内を訪れる観光客数 (墨田区基本計画より)	万人	目標値			950
			実績値			909

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

観光ルート上に6か所を整備することとしており、現在、3か所を整備している。今後は、北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業や歴史文化公園整備事業といった新たな観光資源等を考慮した上で、老朽化した既存トイレの改修も視野に整備候補地の選定を行い、残り3か所の整備を行っていく。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	項	目	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称		収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの				
27年度 実績額		28年度 予算額		対象
開始 年度		根拠法令		
算定基準			補助率	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>トイレ整備に対するニーズはある。休止又は中止した場合の影響は無い。 東京スカイツリー開業後、テレビ番組や雑誌等でまち歩きの紹介されることにより、主要観光施設周辺で観光客が増加している。 現在の施設は老朽化しているものが多いため、誰もが安全、安心、快適に利用できるまち歩きトイレへの改修はどちらかといえば必要である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指数は横ばい。 ほかの一般トイレの改修と異なり観光客向けの質の高い整備内容であることから有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>類似事業は無し。指数は横ばい。受益者負担は該当しない。 一般トイレと違い特別に設計をして整備を行っていることから効率性は低い。既存の公衆便所の改築事業と連携を図り、最も有効かつ効果的なトイレの配置を考えることができる。</p>				
(4)現状と課題	新規に公衆トイレを設置する場合、近隣住民との地元調整及び合意形成を図ることが難しい。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。 誰もが安全・安心・快適に利用できるトイレとして、まち歩きの観光の周遊ルートに適切に配置することにより、より高い効果となるように実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成23年度に整備した3箇所の利用状況等を把握し、残り3箇所の整備に反映させる。 新たな観光施策である北十間川・墨田公園観光回遊路整備事業や、歴史文化公園整備事業との関係を整理し、整備候補地の選定を行い、早期に残り3箇所の整備を行っていく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	船着場周辺施設整備事業		所管課・係	都市整備課河川担当
施策	122	特色あるすみだらしい魅力をもった観光資源や観光ルートをつくる	連絡先	03-5608-6294
予算書名称	船着場周辺施設整備事業費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

【吾妻橋船着場】 平成26年度：休憩施設設置検討委託、案内看板設置	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		
おしなり公園船着場及び吾妻橋船着場利用者、公園利用者		に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		
各水辺空間における休憩施設や案内板等の整備		を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		
水と緑に親しめ、やすらぎが実感できる		状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	休憩施設整備箇所数	箇所	目標値	/	1	0
			実績値		1	1
成果指標 (目的に対する指標)	区内を訪れる観光客数	万人	目標値	/		950
			実績値			909

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

来園者や船着場を利用する観光客の増加に対応する形で休憩施設や案内看板の設置が有効に作用している。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率		28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>各船着場の利用者がその後の観光等に円滑にできるように施設整備の充実化が必要である。事業を休止又は中止した場合の影響は中程度である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指数は目標値に近づきつつある。各施設は舟運事業者の意見等を速やかに反映し、整備していることから有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	効率的
<p>類似事業、受益者負担は無い。経費は整備内容によって増減する。舟運事業者との会議を踏まえ、利用実態を反映した整備を行っているため、どちらかといえば効率的に事業を行っている。</p>				
(4)現状と課題	<p>利用者をこれまで以上に増やすことは施設整備だけでは限界がある。また、まち歩きに代表される区内観光の入り口部分でもあることから、舟運事業者や観光部門との連携がこれまで以上に不可欠である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>東京スカイツリーの開業や墨田区船着場条例の制定により船着場が民間開放され、船着場の利用者が年々増加していることから、今後も引き続き関係人の意見を聞きながら船着場周辺の整備を進めていく必要がある。ただし、公園施設改修の他事業と合わせて実施することも考えられるため、執行方法の検討は必要である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>吾妻橋船着場の休憩施設整備完了後、船着場周辺のにぎわい創出及び公園利用者の増加方法の検討について、関係部局との連携を図る必要がある。また、夜間利用の促進による利用者の増加を図るため、照明施設の改修等も必要と考えられる。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	